

雜

報

■ 母 校 近 況

昨年本會會報十二號を以てお知らせして以來約半歳の變遷を録し、些か母校回想の資に供し度いと思ひます。(順序不定)

◇八木誠政氏は京都帝國大學助教に任命せられ一月榮轉あり、日下生物學教室(昆蟲學)に研究を續けて居られる。氏の獨創的研究が陸續と發表せられることを切望する次第である。

◇小見益男氏も本年三月同京都大學農學部昆蟲學教室に榮轉せられ、又小湊潔氏も同教室の人となられたので京大と母校との距離は急に短縮された感が致します。

◇阿形教授には在外研究を命ぜられ三月十五日渡歐の途に着かれました。ベルリン御安着迄の御手紙は終に登載して置きましたから御覽下さい。御到着後間もなく嚴父の御逝去遊ばされた事は何とも御氣の毒の次第であります。

◇遠藤教授は曩に提出せられた絹絲油燒に關する論文が通過して農學博士の學位を得られました。先生の御喜びはもとより吾々も大に肩身が廣くなつた様に思はれます。先生は只今南佛伊太利の旅行を終へて再びパリへに戻られ日下アルプス登山や英吉利旅行などに愉快な日を過されて居ることと思ひます。

◇三谷教授は御都合上本官を御勇退遊ばされ只今母校講師として不相變御研究中であります。

◇最近迄部長制であつた母校は五月頃から各科長制に改められ養蠶科長井上教授、製絲科長大瀧教授、絹絲紡績科長石倉教授といふことに決定相成り大瀧先生には御得意の刀劍術に依て、どしどし人物の鋭鈍を御鑑定下さることと思ひます。

◇阿形教授御留學の爲め井上教授が教務課長を兼任せらるる事になり、尙同先生は校友会副會長や長野縣蠶業試驗場長等かも兼ねられて居るので日頃至つて御多忙の様に御見受けせられるにも拘はらず、而かも斯學の爲に益御研究の歩を進められるのは誠に感謝にたへない次第であります。

◇學生の軍事教育實施の爲め陸軍省から現役將校の配屬を受くることになり、現に入江歩兵大尉が御着任になりました。

◇早野氏の後任欠員中の處先般小澤助教が御來任になり、同氏は劍道五段の上に水泳の達人であります。只今生徒監補助として例の官舎に在宿中です。

◇針塚校長には益御壯健にあられ、七月中井上、和田、早川、岩崎、早乙女の諸先生と共に燕岳、槍岳の縦走登山を決行せられました。其の際の記念一首。

白雲を突破りけり槍の峯

◇母校では岩崎四段の御指導のもとに毎日午前十一時半から自派術を實行して居ります針塚校長先生及び和田先生初めとして參加する者多數なるは喜ばしいことです。

◇森山助教(絲四)は東北帝大工學部に約一ヶ年御研究中の處先般其の研究も了つて四月から歸校せられました。

◇甲田助教(絲七)は今度和歌山縣妙寺製絲場に轉任せられ、其の後任として榊原春彦氏(絲八)が助教に任命せられ、榊原君の後を襲つて田中定男氏(絲九)が講師に任命せられました。

◇小見氏の後任として勝又藤夫氏(蠶九)が教師に任命せられ、北澤周一氏(蠶十)も亦同教師に任ぜられて何れも養蠶科に勤務して居られます。

◇同窓會基金徵收の爲め、本會會計事務益繁雜となりましたから本校助手の小山君に本會囑託となつて主として會計事務を手傳て戴くことになりました。

◇前會報に報告した本校冷蔵庫、蠶室内溫湯暖房裝置、移開式自動資滿機、英大小製造機等は夫々盛に運轉せられて居ります。其の寫眞を登載して御覽に入れます。

■ 消 息

◇朝倉昇氏(蠶一)、野崎清氏(蠶四)は經濟學士(京大)に、中田太郎氏(蠶七)及桂應祥氏(農學士(九大))として芽田度御卒業あり、尙長澤千丈氏(蠶四)、佐藤道氏(蠶九)も亦經濟學部(京大)を芽田度御卒業になりました。

◇大阪商工教授向山隆福氏(蠶一)は人造絹絲研究の爲二ヶ年間に在外研究を命ぜられ去三月渡米あり、早く獨逸に向はるる筈です。

■ 會 合

◇高橋清七先生には先年芽田度還曆を迎へられましたので曩に同士相談つて離金し昨年十二月二十五日に母校病理學教室の一部を借りて祝賀式を舉行致しました。當日、針塚校長初め井上、佐藤(利)及佐藤(春)教授等の御臨席を仰ぎ又附近同窓生約三十名の御來會があり盛大に祝賀式を挙げ石川新太郎氏の筆に成れる同先生の油繪肖像と記念品料(後項會計報告の通り)とを贈呈することに致しました。

◇三月九日例により新舊卒業生懇話會を明論堂に開催し、新らしく卒業せらるべき各科三學年生約六十余名と舊卒業生三十名ばかり相會して楽しく一夕の歡を盡しました。

◇三月十五日母校第十二回卒業式後本會總會を開催し、先般御通知せる通り母校創立二十周年記念(大正十九年)舉行の件と、本會基金徵收の件(入會金)其他を決議することとなり之に伴ふ本會々則の變更を見ることになりました。

◇四月二十六日針塚校長關西御旅行の機會に本會東海支部會を豊橋市に開くこととなり本部から蒲生氏も出席し約廿有余名相會して盛に氣焔を舉げました。

◇福島市を中心とする同窓諸兄は曩に千曲會福島支部の發會式を舉げ田附卯一耶氏(蠶

一) が幹事長となりました。

國 會 告

◇去三月十五日の總會の結果本會規則を本號表紙裏面印刷の通り變更し、去七月から從來の同窓生諸兄よりは入會金三十圓に相當する臨時會費の五ヶ年々賦納入を願ふことに致しました。次回は十一月二十日頃に御納入を願ふつもりで居りますが、集金郵便のみでは却て御迷惑の點もあることゝ存じますから、別紙振替用紙を御利用下さつて十月中に第二期分の御拂込を願ひ度いと思ひます。若し十月中に御拂込無い方には十一月二十日迄に集金郵便を差上げることゝ致しますから之亦御承引を願ひます。

從て今後毎年の拂込期及集金期を次の通りに定めて置き度いと思ひますから御都合によつて夫々拂込期中に振替を御利用下さることを希望して置きます。

第一期 拂 込 期 四 月 中

全 集 金 期 五月二十日頃

金 五 圓 也 { 金 三 圓 通常會費
金 二 圓 入 會 金(臨時會費)

第二期 拂 込 期 十 月 中

全 集 金 期 十一月二十日頃

金 五 圓 也 { 金 四 圓 入會金(臨時會費)
金 一 圓 校友會特別會費

◇本會々費として毎年三圓宛の通常會費の代りに金三十圓の終身會費を三ヶ年以内に分納し得ることになつて居りますから、會員數の増加に伴ひ會務の繁瑣も亦一入激増することゝ御察し下され成る可く終身會費の御拂込を希望する次第であります。

◇本年は恰かも母校創立十五周年に相當致しますから、本會規則第六條に據り蠶絲業に關する記念講演會を開催することになりました。會期及講習課目は大概次の豫定で居ります。講師等は目下未定でありますが勿論斯界一流の學者を網羅する積りで居りますから、遠近を問はず多數の御參會を御願ひ申し上げます。

講 習 會 期 本年十一月上、中旬、 約五日間

講 習 課 目	蠶絲業に關する化學的研究	四講座
	人造絹絲に就て	一講座
	繭絲の物理學的研究	一講座
	蠶絲經濟方面	一講座

◇本會々員總數は無慮七百に及び從て庶務及會計等の本會一般事務は益繁雜を極むることになりますから、今後は相成る可くは各地同窓諸兄に於て夫々の區劃に本會支部を設置せられて是等事務の地方的分擔を御願ひ度いと思ひます。(支部規定參照)

◇本會本部に於ける只今の事務分掌を次の通り決定して居りますから御用事の場合は夫々の主任幹事に對し御照會を願ひます。

名譽會長	針 塚 校 長
幹 事 長	蒲 生 俊 興
副幹事長	林 貞 三
全 上	森 山 二 郎
庶務幹事	樋 口 琢 磨 (講習講話其他事務)
會計幹事	楠 原 春 彦 (會費ノ徴收及出納)
編輯幹事	勝 又 藤 夫 (雜誌ノ編纂及移動通知)

◇本會々報は比較的分譲希望者が多いことと存じますから、今後は豫約募集によつて賞費分譲を行ひ度いと思ひます。本十三號に對しても約百部以内の余裕を存してありますから本誌到着後直ちに御申越の順により分譲に應ずることが出來ます。尙次回の發刊は來年一、二月の豫定でありますから其の前に豫約申込を願ひ度いと思ひます。(實費送料共金一圓五十錢内外、振替口座東京第四三三四一番)

◇本會々員名簿を十一月中に印刷に付し度いと思ひますから其迄に御變更又は御訂正の方は至急左記宛て御通知下さい。 上田蠶絲専門學校内 勝又藤夫宛

◇今後は各支部と本部との連絡を圖る爲めに各支部(千曲會)の御總會等の場合には事情の許す限り本部からも參會し度いと思ひますから其の都度御通報を御願ひ申し上げます。

■ 寄 書

◇佛國 Alais の空より

三月二十二日 遠 藤 保 太 郎

愈々暖い春が來ました。あの麗かな上田の眺望が想出されます。此手紙の着く頃は花も盛で頬の邊がポーツミする頃でしやう。私も御蔭で異國に一年有半を遣しました。今南佛の養蠶地域を巡歴して居ますが豫期に反して餘り香しい獲物も有りません。

モンベリエではランベール先生の案内で農學校の桑園や附近の古い桑の並木などを見せて貰ひ、一打ばかり寫眞を撮りました。アレース市へ來て農商務省の蠶業試驗場へ入れて貰ふつもりでしたが餘り貧弱で二の足を踏みました。といふのは名丈は大々的のもので場長室の戸に Monsieur le Directeur ……………と嚴めしく書いてあるが、室としては此の他に實驗室と飼育室とが各一間宛合せて三室しかないので、助手は若い娘一人、其他支那の女の見習生が一人丈です。養蠶が始ればもう少し手傳に來るでしやうが餘りに情ない話です。桑園も去年始て開設された許りで鼠の尾位の桑が生えて居ます。其桑園に案内して呉れたスクレラーン場長は、根刈速成桑園の効能を盛に吹聴され、將來の桑園は之に限るとばかり大得意。之には合植を打つに閉口しました。よい加減な返事をして居たら日本でも之を眞似てやつたらよいでせうと來た。どつちが眞似るのか知る人ぞ知る。佛國人が日本の事情に暗い事はとてもお話になりません。アメリカは日本に近く始終互の間に交渉があるからかなり日本を理解して居る様ですが、佛蘭西人の多くは支那の一部分か、南洋あたりの島位に思つて居ます。併しアメリカ人と違つて人を小馬鹿にする様な所はない様

です。アメリカ(殊にカリフォルニア)では、日本人と同じテールに就く事を嫌ひます。活動館の中でも、出来るだけ日本人の隣席を避けたがります。汽車の中でも日本人と口をきく事を愉快としません。動もすればニグロと同視する傾向も見えます。所が佛國ではエトランゼを嫌はない良い習慣があります。外人は酒を澤山飲んで、美味しいものを食べて金ドサドサ落して行くものだ。精々狂つて女を心中する位のものと考へて居るらしいアメリカの女は活潑で男性的の所があつて恐ろしいが、フランスの女は日本と同じ様に内気で可愛い所があります。然し餘り金好きらしくて厭ふなります。矢張日本人は日本人同士白人は白人同士の方が無難といふものでせう。

遠く故國を離れて淋しい旅をして居る者の精神状態は一種妙なものです。ホームシックと迄行かなくても愛に溺ぐと云ふ風なものでしょうか。女の一寸した愛嬌や世辭を幾倍にも有りがたく思ふ。日本人同士が寄り合ふと必ず女の話が出る。私も巴里に居ている面白い話の種を仕入れましたが、之はいづれ歸朝の節に譲りませう。

さて話がすつかり横道にそれましたが、近頃私は田舎巡りをして暢氣に暮して居ます。五六月頃迄旅行を續けて伊佛の桑園を詳しく視察しようと思つて居ます。

私は佛國の蠶業教育を見て、吾専門學校の職員學生が大いに自重しなくてはならん事を深く感じました。夫といふのは設備の點及境遇上から見て上田の専門學校は世界一の蠶業教育機關である事を認めたからであります。少し大仰すぎる言ひ草ですがほんとうです。だから私共も其名を恥かしめない様に努力しなくてはならないと思ひます。さようなら

Marseille に 着 き て

四 月 十 七 日

前略 四五日前マルセーユに辿り着きました。當地も今は快晴續きて寒からず暑からずといふ季節ですが、海濱だけに風が強く砂塵朦々と吹き上るので散歩も餘り愉快ではありません。尤にマルセーユは人氣が餘り良くないので、旅館の一室に引籠て本でも見て居る方が氣樂です。五月九日迄マルセーユに居て、それから佛國東南部のヴァールやアルプ縣方面へ養蠶家訪問に出掛け、其足で伊太利を巡て來たいと思つて居ます。伊太利では出来るだけ桑の本を集める心算です。佛蘭西の分は既に一通手に入れましたが矢張ランペール氏のものが最優れて居ます。目下ランペール氏から貰つた柘やキバナノバラモンテンを以てした飼育試験成績を讀んで居ます。

學校への御土産としては、耕作農具各種ゴスチアスーの顯微鏡及び附屬品一切を買求めて行かうと思つて居ます。

桑の苗木が欲しいと思つて今迄方々巡つて見ましたが余り香しいものは見當りません。唯一種モレッチと唱ふる桑(日本にも既に多少移入されて居る様ですが)大葉で種子に依り繁殖が出来其形質を完全に存続するといふ特徴がありまして面白そうですから、其の苗木か種子を手に入れやうと考へて居ます。桑樹の寫眞もかなり撮りました。何れ歸朝の上御覽に入れる事を樂みにして居ます。

尙最近伊太利の各地より消息がありました。

◇Berlinより

5 月 3日

阿 形 輝 司

拜呈 時下益々御壯建奉慶賀候 僭小生

3月15日	正午	神 戸 出 帆	
16日	午前8時 (20時間)	門 司 着	
17日	正午	門 司 出 帆	
19日	午前8時 (約3日間)	上 海 着	航海中正午の気温(華氏)
21日	午前7時	上 海 出 帆	52°
24日	午前6時 (約3日間)	香 港 着	66
25日	正午	香 港 出 帆	81
			84
30日	午前6時 (約5日間)	シンガポール着	83
31日	午前10時	シンガポール發	81
4月1日	午後3時 (約5日半)	ベ ナ ン 着	84
	午後10時	ベ ナ ン 發	
5日	午後7時	コ ロ ン ボ 着	86
6日	午後8時	コ ロ ン ボ 發	88
			81
13日	午後6時 (約7日間)	紅 海 に 入 る	85
			89
17日	正午 (約4日間)	ス エ ズ 着	78
17日	午後3時	スエズ發運河に入る	
18日	午前2時 (11時間)	ポートサイド着	
18日	午後7時	全地發地中海に入る	62
			60
23日	午後4時 (約5日間)	マルセイユ着上陸	
24日	午後11時30分	マルセイユ發車(急行)	
25日	午後2時30分(15時間)	巴 里 着	
30日	午後8時30分	巴 里 發(急行)	
5月1日	午後5時30分(21時間)	伯 林 着	

直ちにパンジョンに入り候間御安心被下度候 敬具

職 員 各 位 御 中

因に先生の御宿所は

Pension Erichsen 25 Speyerer st. Schöne Berg Berlin. である。

尙宛名は

Herrn prof. Dr. T. Agata

Bei der Japanischen Botschaft. Berlin. Deutschland.

圖決 算 報 告

大正十三年度會計報告

收 入 之 部

前 期 繰 越 金	.665
基本金利子ヨリ借入	100.000
同 窓 會 費	1558.000
終 身 會 費	90.000
入 會 金	201.000
預 金 利 子	4.240
會報學生讓與代	44.100
合 計	1998.005

支 出 之 部

同窓會報 第十二號	658.880
會員名簿正誤表	23.750
會 報 送 料	24.300
會員名簿原簿	40.100
賜 託 手 當	52.500
年末賞與及謝禮	13.000
事 務 所 費	31.400
新舊卒業生懇話會補助	31.000
總 會 補 助	10.000
總會通知其他通信費	28.920
集金郵便切手代	40.670
切手別納郵便料	4.200
原 稿 用 紙 代	5.000
雜 費	4.470
基 本 金 へ 返 濟	100.000
基 本 金 へ 繰 込	356.800
殘 金(次期繰越)	573.015
合 計	1998.005

大正十三年度基本金收支報告

摘 要 收 入

前年度繰越金高	3632円23
十三年度通常會計へ貸出	100円00
全 上 貸 入 ル	100.00

十三年度積立金	155.80	
十三年度入會金	201.00	
收入利子(自大正十三年五月一日 至大正十四年三月末日)	165.64	
全上所得稅	8.13	3146.54

高橋講師還曆祝賀記念金決算報告

金四百七拾壹圓五拾錢也	記念金應募總額
內 譯	
金參百五拾圓也	以金券贈呈
金壹百拾圓也	先生御肖像油繪一臺呈上
金五圓〇五錢也	通信費全額
金六圓四拾五錢也	記念金並記念品贈呈式費
以 上	

寄贈者諸君芳名

金 五 圓 宛	向山 隆福君	前田 節男君	鹽原 克己君	全 學 仁君
	中田 太郎君	石原 石司君	竹內 虎男君	久保田昌人君
	小林 輝一君	波多野千里君	上林多兵衛君	大石 卓壽君
	蒲生 俊典君	飯島 正胤君	倉澤 美德君	
金 參 圓 宛	關田 九平君	小川 保君	小澄 晉君	朝長 勝治君
	穗坂 小牧君	中澤 勝也君	浦山 藤吉君	須田 圭二君
	田村 三郎君	小見 益男君	濱井 壽夫君	篠田平三郎君
	細川 護君	佐藤 尙雄君	宇田虎一郎君	高須 兵司君
	木脇 寅熊君	野澤 泰治君	淺見 好雄君	原 清志君
	高島 秀雄君	矢澤茂登一君	清水遼太郎君	吉野 健吉君
	渡邊 康輔君	花岡 作彌君	宇多田泰熊君	福島 新吉君
	原田 兵衛君	山本岩三都君	樋口 琢摩君	松村 季美君
	岸 勝彌君	佐藤良太郎君	矢島 剛君	田附卯一郎君
	田口富五郎君	鶴田 定平君	田中 福雄君	唐澤 正平君
	白澤 幹君	栗林 悅君	平澤 勝君	八木 誠政君
	母袋 良平君	齋藤 格次君		
金貳圓五拾錢宛	小林 繁君			
金貳圓宛	佐藤 道君	寺島 親雄君	小林 道真君	坂田 榮雄君
	四方 定雄君	松井 清三君	高橋 善吾君	安孫子文彌君
	小林 庸君	三橋 宜夫君	有賀 文雄君	菅野 三郎君

是枝 良徳君	小島 杉門君	依田 信一君	岡部 康之君
小林 勳君	高木 三治君	櫻井 吉利君	石坂虎次郎君
曾山 直高君	勅使川原保君	宮田鐵五郎君	小松 茂久君
齋藤繁太郎君	松浦 清君	桑田 庄七君	林 新一君
貞包 新君	尾藤 省三君	鍵谷 傳君	佐藤 國一君
齋藤 菊雄君	富岡 泰君	絹村 貢君	根岸丑之輔君
久保田正樹君	皆川 二郎君	越智 岩平君	湯川 秀夫君
塩見 豊一君	大簗 政平君	川村吉太郎君	中村龜四郎君
松澤 德榮君	峯村 壽命君	中島 茂司君	藤崎 鎧君
酒井 末吉君	篠原 善次君	小山 庸人君	柴田 汎一君
秋山愛次郎君	橋本 景吉君	佐藤 彰二君	佐藤 愛之君
深谷 正一君	中島靜太郎君	立岩 笑保君	今井 又藏君
永田 平君	林 貞三君	藤井 周藏君	長瀬 深見君
小林 國造君	中村 由技君	万石安太郎君	大池 彰君
山本三六郎君	櫻井 英作君	岸 善亮君	尾見 祐八君
市村 幹司君	日野 光平君	磯野 良知君	郷丸 晴治君
長谷川正雄君	北澤 周一君	中島 茂君	猪坂 直一君
甲田 勝衛君	上原 清夫君	小笠原安重君	鹽見 喜六君
稻井 彌一君	鈴木 貞治君	緒方善之助君	梶田 廣貞君
村島 徹君	上野 榮仁君	中島 文雄君	伊藤 喜代君
荻田 恭一君	清水 二郎君	川合軍之助君	船越 重勝君
沖 濤治君	大町 省三君	小野 修二君	北村 一郎君
五島眞喜太君	前田 益藏君	黒木 農夫君	廣井 俊一君
後藤 宰一君	高橋 利光君	小田切四郎君	清水 清君
金崎 眞英君	福谷朝太郎君	西山 市三君	的場 小六君
稻石 佐一君	田中 康雄君	黒岩 豊君	小宮山太助君
茂正太郎君	森 千城君	榑原鶴次郎君	森本爲之助君
古山 宗八君	橋本 廣君	原田 種龜君	竹内 健次君
奥村 好一君	平塚芳太郎君	勝又 藤夫君	小林 啓介君
門平潤一郎君	居相 泰一君	柴田 未治君	工藤一二三君
三輪 輔君	水谷 郷一君	小林 茂樹君	野村 又次君
松田 敬三君	大高 雄三君	小澤周一郎君	菅澤 隆三君
太田慎一郎君	吉村 眞作君	萩原 孫三君	大畠 秀君
倉橋 琢而君	山口 貞周君	竹内 清君	岩本 市郎君
福田鐵之助君	内田 憲治君	松尾 順策君	堀江 尙君

金壹圓五拾錢宛

金壹圓宛

中島 文雄君	志田傳次郎君	牧野金次郎君	田附由次郎君
北澤 茂君	都筑 賢吉君	棚原 春彦君	松野 正一君
小林 英夫君	關口 三郎君	岸田 繁雄君	弓田 弘君
小山田啓三君	杉木 政義君		

故友松董太郎君弔慰金

金 五 圓 宛	野口儒太郎君	佐藤 一君		
金 貳 圓 宛	後藤 政之君	坂路 善一君	河西 尙一君	碓氷 茂君
金壹圓五拾錢宛	田子 英人君			
金 壹 圓 宛	野村 又治君	清水 清君	飯島 貞雄君	山岸 寅雄君
	青木 喬君	清水 保君	小林 榮夫君	稻生 得藏君
	小田切四郎君	菅野 三郎君	廣田 雅夫君	兒玉 慶次君
	古川 俊之君	深谷 正一君	川船 卓爾君	湯澤 重敬君
	柏倉 豊吉君	伊藤 喜代君	宮本 靜雄君	植村 秀夫君
	尾藤 省三君	井上 一郎君		
金 五 拾 錢 宛	佐藤 義助君	栗栖 忠士君	九合喜右衛門君	加藤 善一君
	塚田宇平太君	竹内 健次君	依田寛之介君	牧野 春雄君
	万石安太郎君			
金 參 拾 錢 宛	萩野 上風君		以 上	
合 計	金四拾六圓參拾錢也			
内 譯	金五圓參拾五錢			
差 引 計	金四拾圓九拾五錢也			
			通 信 費	
			遺 族 贈 呈	